



大府市中央図書館

- 天山の巫女ソニン
- 菅野雪虫
- 講談社

巫女みこになるために、生後まもなく聖なる山〈天山〉に連れてこられた少女・ソニン。しかし、十二年後、素質がないため里に返されてしまいます。家族や友達との里での生活にも慣れてきたころ、ソニンは王子イオルと出会います。イオルはしゃべることのできない不遇の王子。けれど、ソニンにだけはなぜか王子の声が聞こえたのです。古代中国風の世界を舞台に、三つの国を歩き来しながら落ちこぼれ巫女ソニンと王子イオルの物語が始まります。

大府市中央図書館

- 君になりたい
- 恋の短歌
- 穂村弘／編
- 後藤貴志／絵
- 岩崎書店



短歌で表現された「ラブレター」を十四首集め、それぞれの歌に合った味のある装画がページいっぱい広がっています。それぞれの歌のわかりやすい現代語訳もしっかり書かれていますので、中学生のみならず小学生から大人まで幅広い年齢層の方に楽しんでもらえる本ではないでしょうか。選ばれている歌も古いものでは「与謝野晶子」「北原白秋」などから選首されておりますが、「恋の短歌」というだれもが共感できるテーマなので堅苦しさがないのも魅力の一つです。

知多市立中央図書館

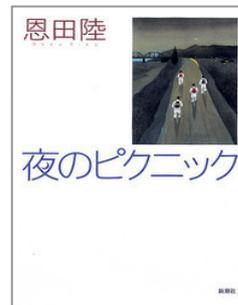
- ウェルカム・ホーム！
- 鷺沢萌
- 新潮社



この本には、二通りの家族のかたちが描かれています。友人宅に居候しながら「主夫」をしている渡辺毅。外資系企業を育てる児島律子。ここに描かれている家族のかたちは、たぶんとてもいびつだけれど、とても家族らしい。血がつながっていないなくても家族、一緒に住んでいなくても家族。どんなに離れていてもいちばん身近にいて、思い合っている。それぞれの人生が集まって家族なのだ、と気付かされる一冊です。

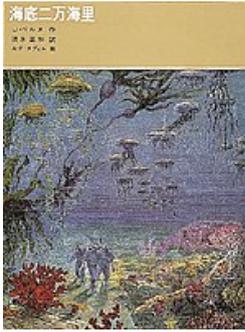
知多市立中央図書館

- 夜のピクニック
- 恩田陸
- 新潮社



貴子の通う北高には修学旅行はありません。代わりに北高鍛練歩行祭という行事があって、一昼夜を歩き通します。高校生活最後の行事となった歩行祭に、貴子は小さな賭けをしました。それは、腹違いのきょうだいであるクラスメート、西脇融と話をすることでした。貴子、融、そして友人たちの姿がさわやかに描き出され、高校生活はこんなにもきらきらしていてもまぶしいのだと、改めて気付かされます。今という一瞬、戻らない時間をとてもいとおしく感じる一冊です。

阿久比町立図書館



- 海底二万海里
- J・ベルヌ／作
- A・ド・ヌヴィル／画
- 清水正和／訳
- 福音館書店

世界各地の海に出没した巨大鯨(怪物)捕獲のフリゲート艦からパリ博物館アロナックス教授と助手のコンセーユ、もり打ち名手のネッド・ランドが海に投げ出されました。助けたのは潜水艦「ノーチラス号」のネモ艦長。巨大鯨と思われるいたものが、人間を避け、陸地と離れ海底に生きる謎の男ネモが造り上げた原子力潜水艦。囚われの身となった三人の男と艦長の緊張したドラマが始まります。冒険物語好きの読者を神秘と驚異に充ちた海底世界へ導きます。

阿久比町立図書館



- ミイラになったブタ
- 自然界の生きたつながり
- スーザン・E・クインラン／著
- 藤田千枝／訳
- さ・え・ら書房

自然界の生きたつながりを、植物や動物の観察・実験を通して解決していこうとする学問が「生態学」です。この本では、消えたノウサギの秘密、チョウはなぜ美しい？育ちたくない木など十四の例を挙げて説明しています。書名となった「ミイラになったブタ」では、ブタの死骸が腐るためにはハエやアリが必要で、細菌だけでは腐らず、ミイラとなることを実証しています。一冊を通して読むと、人間も自然界の一部であることが実感できます。

東浦町中央図書館



- しゃばけ
- 島中恵
- 新潮社

若だんなど、彼を守る、どこかおぼけたようかいたちが江戸の町で事件を解決する、時代物ファンタジー。生まれながら病弱なため、甘やかされて育ってきた若だんな。しかし、周りの人に心配をかけることを心苦しく思います。思いどおりにならない中で、自分なりに何かできないかと悩み少しずつ成長する若だんなの一生懸命さが伝わります。シリーズ「ぬしさまへ」「ねこのばば」など全七冊あります。

東浦町中央図書館

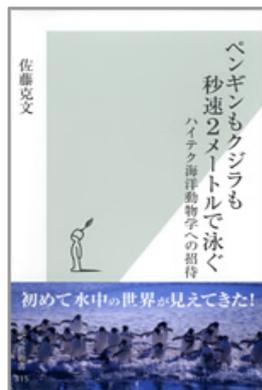


- 14歳の君へ
- どう考えどう生きるか
- 池田晶子
- 毎日新聞社

自分らしくと言われても……、本当の自分って何だろう、生きるってどういうことだろうと悩むことはありませんか。哲学者である著者池田さんがこれから大人になる君たちに、考えることとの大切さ、どう生きたらよいのかを教えてください。「個性」「友達」「人生の意味」など、十六のテーマについてエッセイ風を書いてあります。

南知多町民会館
図書室

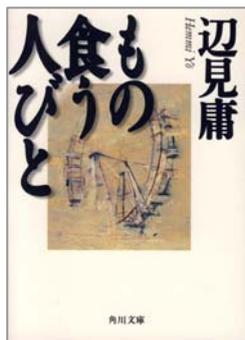
- ペンギンもクジラも
秒速2メートルで泳ぐ
- 佐藤克文
- 光文社



小型のハイテク機器を海中の動物に直接取り付けることによって、直接観察できないため謎の多かった水生動物の生態を把握する「バイオロギング科学」。この新しい学問により、大きな動物も小さな動物も、実は泳ぐ速さはあまり変わらない、などなど、これまでの常識をくつがえすユニークな発見がなされました。ハイテクで明らかにされたペンギンやクジラ、ウミガメ、アザラシなどの行動生態が生き生きと描かれています。

南知多町民会館
図書室

- もの食う人びと
- 辺見庸
- 角川書店



現在の日本は、お金さえ出せば食べられないものはないほど食べ物にあふれ、飽食の時代と言われるほどです。しかし、世界には、残飯を食べている人、放射能に汚染された食物を食べている人など、危険な食べ物と知りながらも生きるためにそれを食べている人がいます。著者が世界各地を旅して取材体験したことが書かれており、食べるとは、また生きるとはどういうことか考え直すきっかけとなる本です。

美浜町図書館

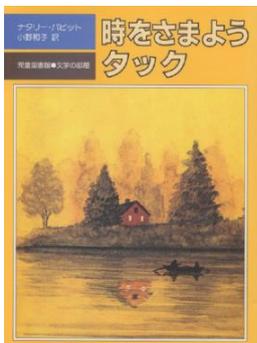
- リバウンド
- エリック・ウォルターズ／作
- 小梨直／訳
- 深川直美／画
- 福音館書店



シヨーンは、新学期初日に言いがかりをつけられけんかをしてしまいます。相手は、車いすに乗っていることに同情されることを極端に嫌がり挑戦的な態度をとっているデーヴィッド。二人はぶつかり合いながらもバスケットという共通点によって心を通わせていきます。「大事なものは、シュートして得点をかせぐことだけじゃない。失敗したシュートを次にどうやって決めるかだ。」あきらめずに挑戦し続けることの大切さと本当の優しさを二人が伝えてくれます。

美浜町図書館

- 時をさまようタック
- ナタリー・バビット
- 小野和子／訳
- 評論社



「不老不死の水」があったらあなたは飲みますか？ 八十七年前、タック一家は偶然に泉の水を飲んで永遠の若さを手に入れてしまいます。十年に一度と決めた家族の再会の日、少女ウイニーと出会い、一家が守り続けてきた秘密が漏れそうになる事件が起こってしまいます。「死をもたずに生きることは意味のないことだ」父タックの言葉は私たちに何を伝えようとしているのか。登場人物の思いが切なく、そして、今を生きる命の重みが胸にしみる感動作です。

武豊町立図書館



- ちいさな天使とデンジャラス・パイ
- ジョーダン・ソーネンブリック／著
- 池内恵／訳
- 主婦の友社

僕、ステイブンにとって、八歳年下の弟・ジェフリーは「悪夢以外の何物でもない」ほどわずらわしい、世界で一番うつとうしい存在でした。あの日、ジェフリーが白血病と宣告されるまでは……。

大好きで無邪気なジェフリーが死んでしまうかもしれない。弟の病気をきっかけに変わっていくステイブンの優しさが心に響きま

武豊町立図書館



- 西95丁目のゴースト
- エレン・ポッター／著
- 海後礼子／訳
- 主婦の友社

オリビアが、管理人をしている父親と四回目の引っ越しでやってきたニューヨーク西九十五丁目のマンションは、今までとは違っていました。そのマンションの住人は、全面ガラス張りの部屋に住む老婦人、熱帯雨林のジャングルのような部屋に住むほら貝をふく謎の女性、百歳を超えているというウワサもある霊媒師など、奇妙でおかしな人たちがばかりでした。そこで、オリビアは不思議な少年と出会いますが……。ちよっと切ないファンタジーです。

岡崎市立中央図書館



- おばあちゃんが、ぼけた。
- 村瀬孝生
- 理論社

いろんな「ぼけた」老人のエピソードが書かれています。おもしろいと言っただけでお年寄りに失礼かもしれませんが、なんだかとてもほほえましくて、かわいらしい姿が、おもしろい。すごく楽しいおじいさんやおばあさんがぎっしり詰まっています。

「ぼけた」家族を必死で介護するという、ありがちな本ではなく、笑って読んでいるうちに、じんわり大事なことが伝わってくる愛しい一冊です。

岡崎市立中央図書館



- 種まく子供たち
- 佐藤律子／編
- ポプラ社

十六歳の次男を小児ガンで亡くした佐藤さんが、小児ガンの子供たちを応援したいと思って作った体験談集です。

生まれてくるということは、実はそのまま「死」に向かってまっしぐらに走っていくことなのかもしれません。限られた「生」の時間を私たちはなかなか意識できませんが、もし、自分の大切な人や自分自身の命があとわずかだとしたら……。

碧南市民図書館

- いのちの食べかた
- 森達也
- 理論社



とても身近なことなのに、私たちには知らないことがたくさんあります。そのひとつが、毎日のように口に行っているお肉がどうやって食卓に届くのか、ということ。私たちは毎日たくさんの「いのち」を食べて生きています。ではその過程でなにが行われているのか知っているでしょうか？ここに書かれているのは楽しい話ばかりではありません。けれどこれは遠い世界の話ではなく、現実として私たちに直接関わりのあることなのです。知らないことは、恥ずかしいことではありません。知ろうとする勇氣をもってほしいです。

碧南市民図書館

- チョコレート・アンダーグラウンド
- ウンド
- アレックス・シアラー／著
- 金原瑞人／訳
- 求龍堂



選挙で勝利を収めた〈健全健康党〉から発令された「チョコレート禁止法」。その日から、国中の甘いお菓子やチョコレートが姿を消してしまいました。二人の少年、ハントリーとスマッジャーは、ひよんなことからチョコレートを密造し、食べることでできる「地下チョコバー」を始めることになりました。勇氣を出して行動を起こせば、必ず何かが変わるはず！チョコレートと自由のために立ち上がった少年たちの革命の物語。

刈谷市中央図書館

- ポッコちゃん
- 星新一
- 新潮社



星新一という作家は、短編よりもさらに短い、ショート・ショートと呼ばれる作品のかたちを生み出しました。その特徴は「短さ」「オチ」「風刺」から来る、「読みやすさ」と「おもしろさ」です。五十編のショート・ショートが収められたこの本は、内容に重たさはないけれどオチと風刺の秀逸な作品を、手軽に楽しむことのできる一冊です。(オススメは、デラックスな金庫・ゆきとどいた生活・おーいでてーい・生活維持省など。)

刈谷市中央図書館

- いじめ
- 14歳のMessage
- 林慧樹
- 小学館



当時十四歳だった、林慧樹さんの体験をもとに書かれたイジメの話です。主人公の慧佳(すいか)は中学生。イジメられていた同級生を助けた後、今度は自分がイジメられることに。辛く苦しい学校生活の中で慧佳は何を思うのでしょうか。あなたは「イジメ」という言葉を聞いて何を思いますか。自分とは関係のないことですか。それとも、気になる事がありドキッとしましたか。この本は作り物ではない、著者の「生きる」とから逃げないで」という強い願いが込められています。

豊田中央図書館



- 注文の多い料理店
(宮沢賢治童話全集4)
- 宮沢賢治／作
- 味戸ケイコ／画
- 岩崎書店

このお話は、私が学生のころ国語の教科書で紹介されていました。イギリスの兵隊姿をした二人の紳士と白くまのような犬が登場します。山奥を歩いていると、そこに一軒の西洋づくりの家。看板には「西洋料理店 山猫軒」と書かれています。腹をすかせた二人は大喜び。お店の案内札に従って、服を脱いだりクリームを塗ったり。いかにも怪しげなその料理店を訪れた二人の運命は果たして……。読み終わった後の余韻が楽しい名作です。

豊田中央図書館



- 星の王子さま
- サン・テグジュペリ／作
- 内藤濯／訳
- 岩波書店

主人公である星の王子さまは、ふるさとの星を離れて旅に出ます。七番目に訪れた地球でバラの花たちに出会い、遠くふるさとに残してきた美しい花のことを思い出します。そして、キツネに「仲良くなる」かけがえのないものになる」ということを教えられます。いろいろな星を訪れては繰り返される出会いと別れ。星の王子さまの目を通して、いろいろな大人の姿が巧に表現されています。いつか星の王子さまに会えるかも、そんな期待を抱かせてくれる素敵なお話です。

安城市中央図書館



- 世界を信じるためのメソッド
- 森達也
- 理論社

「テレビのニュースは本当のことを言っていて、新聞や本に書いてあることは公平。間違いなんか絶対ない！」って本当かな？ あふれかえる情報の裏には必ず人間がいる。そして人間は必ず間違える……。もしメディアが流している情報が間違っていた場合、私たちはどうやって気づけばいいのでしょうか。長年メディアの世界で戦ってきた作者が、複雑な情報世界を渡り歩く秘訣を教えます。

安城市中央図書館

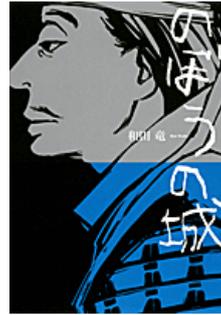


- 弟の戦争
- ロバート・ウェストル／作
- 原田勝／訳
- 徳間書店

ぼくの弟・フィギスには小さい頃から不思議なところがあります。傷ついた生き物を狂ったように助けようとしていたり、写真を見ただけで人の名前がわかったり。ぼくはフィギスが大好きでした。一九九〇年のある日、フィギスは突然奇妙な言葉でしゃべりだし、「自分は湾岸戦争の前線にいる少年兵だ」と言い始めました。「フィギス」と呼んでも返事をしません。ぼくの弟はどこへ行ってしまったのでしょうか……。数々の賞を受賞し各国で話題となった作品です。

西尾市立図書館

- のぼうの城
- 和田竜
- 小学館



戦国時代、天下統一を目指す秀吉は関東の北条家制圧にとりかかり、対する北条家は大小の城を配して防衛線を展開していました。この時、北条方成田家の城代長親は武芸より百姓仕事が好きで、百姓から「のぼう様」とよばれる始末でした。石田三成は秀吉の命を受け、この成田家の忍城攻めを始めたが、弱小（のはずの）田舎城の忍城がどうしても落ちないのです。忍城内に一体何が起きたのか。「のぼう様」にはこれまでの時代物英雄にはない魅力があります。

西尾市立図書館

- 素数ゼミの謎
- 吉村仁／著
- 石森愛彦／絵
- 文藝春秋



二〇〇四年の夏、アメリカで奇妙なニュースが流れました。あるセミが大発生しているというのです。その数、なんと五十億匹！ このセミは不思議なことに十三年あるいは十七年に一度、同じ場所で大発生するらしいのです。この不思議な「素数ゼミ」の謎を解く鍵は、どうやら十三と十七という魔法の数字「素数」に隠されているようで……。理科や数学が好きなの人も苦手な人も、生き物の進化の神秘や数字の不思議さが身近に感じられる一冊です。

知立市図書館

- 方丈記
- （これなら読めるやさしい古典）
- 鴨長明／原著 長尾剛／著 若菜等／画
- 汐文社



鎌倉時代のはじめ頃に書かれた随筆。作者は名門貴族出身の僧侶。作品の前半は、当時京都に起こった大きな災害のルポルタージュで名文です。歴史的資料としても高く評価されています。特に、京都に暮らす貴族中心の社会、平安時代から武士中心の鎌倉時代に移り変わる遷都の様子が、臨場感あふれる様子で描かれています。この時代について、映像を見るようによくわかり、歴史が苦手な人も、興味が湧いてきます。

知立市図書館

- だろぼうの神さま
- コルネーリア・フンケ／作
- 細井直子／訳
- WAVE出版



母を亡くしたプロスパールとボーの兄妹は、さまざまな理由で家を出てきた子どもたちと一緒に、廃きよとなった映画館で暮らしています。保護してくれる大人は誰もいない中、彼らのリーダーとして生活の面倒をみているのは、「だろぼうの神様」と呼ばれる謎の少年スキピオ。しかし、わくわくする冒険の日々も、探偵ヴィクトールの出現により脅かされ……。イタリアのヴェネツィアを舞台に、大人との確執を抱えながらも、活き活きと描かれる少年たちの冒険ファンタジー小説。